

【生活支援】

三鷹国際交流協会との防災パートナーシップ協定について

三鷹市総務部防災課

1. はじめに

平成7年（1995年）の阪神淡路大震災の大きな教訓として、災害の規模が大きければ大きいほど、市をはじめとする公助の力には限界があり、民間の力を借りなければ被害を最小限に食い止めることが難しいことを学んだ。

三鷹市では、阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、民間の団体や企業などと「災害時応援協定」を締結し、災害発生時に、市が行う災害対策に協力してもらうことで、公助の災害対応力を強化する取組みを進めてきた。

特に、市内に多くの外国人学生が学ぶ大学や専門学校が複数存在するほか、外国人学生寮もあり、3千人近くを超える外国人が居住していることに加え、平成13年（2001年）には、三鷹の森ジブリ美術館がオープンし、外国人観光客が増加したことから、震災の教訓を糧に、より積極的に災害時の外国人対策に取り組むこととなった。

2. 防災パートナーシップ協定の締結

そこで、平成16年（2004年）に、三鷹市の外郭団体である財団法人三鷹国際交流協会（現：公益財団法人三鷹国際交流協会、以下「三鷹国際交流協会」という。）との間で「防災パートナーシップに関する協定」を締結した。この協定は、災害発生時のみではなく、日頃からの参加・協働型の防災コミュニティの創設を目指し、市が行う外国人に対する災害応急対策だけでなく災害予防対策にも取り組むことにより、外国人の被害や不安を最小限に食い止めることを目的に締結したものである。

3. 三鷹国際交流協会の平時の活動

三鷹国際交流協会は、ホスピタリティ、いわゆる「おもてなし」を重視して活動する団体であり、その構成員は、留学生などの外国人のほか、外国語を話すことができる日本人が中心となっており、日本人が外国人に日本語を教えるボランティア活動、外国人の児童の授業をサポートする語学サポート、多文化共生を目指して外国の文化や歴史を理解する国際理解活動などを行っている。

4. 災害時の外国人支援活動

三鷹市の地域防災計画では、地震等による大規模な災害が発生した場合には、三鷹国際交流協会に災害時外国人支援センター（以下「支援センター」という。）を設置し、外国人支援活動を実施することになっている。支援内容は、市災害対策本部で把握した災害情報を

支援センターに伝達し、支援センターで必要な情報を多言語化して外国人に提供するほか、東京都外国人支援センターと連携した外国人支援活動を実施することとしており、平成23年（2011年）3月に発生した東日本大震災の際にも、三鷹国際交流協会のホームページ等により災害関連情報を多言語で発信した。

5. 災害に備えた活動

三鷹国際交流協会では、協定に基づく防災パートナーとして、避難所が開設され外国人が避難生活を送ることとなった場合に備え「災害時に役立つ外国語表示シート（9言語）」を作成し、市内で避難所が開設される施設の備蓄倉庫に配備しているほか、災害時通訳翻訳ボランティアの育成事業として、市の防災課と連携して市の基本的な災害対策を学んだり、「避難場所」や「避難所」などの防災用語の訳し方や災害情報の表現方法を学ぶ通訳講座などを実施している。また、市の防災士が講師となり、三鷹国際交流協会のメンバーが通訳を行い、外国人向けの防災講座を実施し、外国人の防災力の向上にも努めている。



【災害時に役立つ外国語表示シート】
参考表示ー「このトイレは使うことができます。」

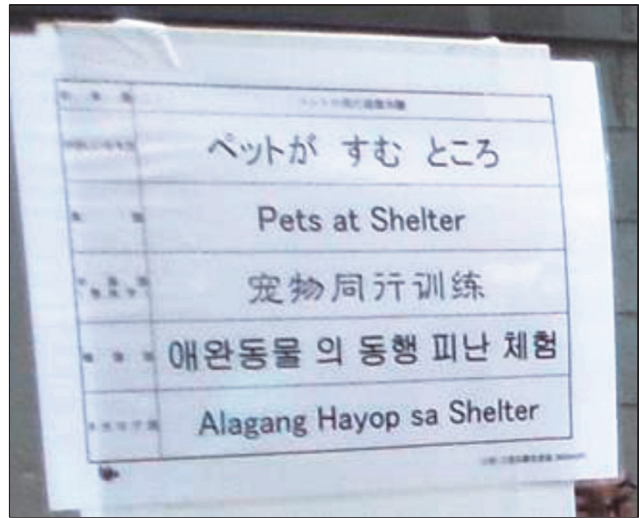


【防災出前講座の様子】

さらに、毎年、市が市民の自助と共助の防災力を高めるために実施している総合防災訓練に参加し、防災関係機関のブースの案内の多言語化や外国人が訓練に参加した場合の通訳などを行っているほか、市が隔年で実施している公助の防災力を高めるために災害時応援協定を締結している団体等とともに実施している防災関係機関連携訓練にも参加し、災害情報の翻訳訓練などを行っている。



【ペット同行避難の様子】



【防災訓練ブースの案内板】

6. おわりに

外国人については、高齢者や障がい者などとは異なり、事前に防災情報を伝達し災害への知識を伝達しておけば、災害発生時に自助に成功する可能性は高くなるほか、発災後に必要な災害情報を伝達することで自立して行動ができる可能性が格段に高まることから、「情報伝達」というのが災害対策のキーワードとなると考えている。今後の課題としては、三鷹の森ジブリ美術館などを訪れる外国人観光客に対し、災害発生時に防災情報の伝達をどのように行っていくかを検討していく必要がある。

市としては、三鷹国際交流協会との防災パートナーシップをベースに、外国人が学ぶ市内の大学や専門学校等とも連携を図りながら、外国人に対する情報伝達を核とした防災対策をさらに進めていきたいと考えている。